

トップメッセージ

自動化技術をさらに飛躍させ、新時代に向けた取り組みで
国内外のお客様の自動化に貢献していきます。

CKD

Knowledge for

代表取締役社長

梶本一典



私たちCKDは、2016年に長期の経営ビジョンである「10年VISION」を策定し、2025年を見据えた取り組みを強化しております。流体制御と自動化のパイオニアとして、国内外のお客様の自動化を実現しながら、「世界のFAトータルサプライヤー」になることを目指しています。DX（デジタルトランスフォーメーション）やアフターコロナなど、大きな変化によって新しい時代へ向かっている中、私たちは10年VISIONの実現を加速させ未来を拓いていきます。そして、より豊かな社会づくりに貢献し、株主の皆様からの期待に応え、社員、そして家族を幸せにしていくとともに、持続可能な社会の実現に向けて、「人にやさしい企業」へ成長し続け、事業を通じた社会貢献にも力を入れてまいります。

新型コロナウイルスについて お見舞いと対応について

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様とご家族および関係者の皆様にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々に心よりご冥福をお祈り申し上げます。併せて、世界各地でこの感染症の治療や感染予防に従事し、協力しておられる皆様に、深く感謝申し上げます。

CKDは、この困難を乗り越えるために、2020年4月に危機管理委員会を立ち上げ、在宅勤務や時差出勤、社内におけるソーシャルディスタンスなど、感染拡大防止策の徹底に取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために、医薬品・医療機器などの開発・生産に取り組まれているお客様から多くの協力要請をいただき、事業の継続とお客様へのサポートに最大限努めております。引き続き、お客様、お取引先様、協力企業、そして、CKDでグローバルに働く従業員と、その家族をはじめとする関係者の皆様の安全と健康を第一に考え、生産活動の維持・継続に努め、モノづくりの自動化を支える社会的責任を遂行してまいります。

新型コロナウイルスの感染拡大を発端に、デジタル化が促進され、ニューノーマルの時代になると想定されています。大きく変化しているこの経営環境を、ステークホルダーの皆様と手を取り合い、乗り越えてまいります。

2019年度の業績

2019年度の連結業績は、売上高1,007億円（前期比12.9%減）、営業利益52億円（前期比23.0%減）、営業利益率は5.2%（前期比0.5ポイント増）、ROEは4.5%（前期比1.5ポイント減）となりました。

2019年度は、年初より米中貿易摩擦による中国経済の減速、半導体設備投資の延期、そして薬価引き下げによる投資抑制など厳しい状況が続きました。下期に入ると、次世代通信普及に向けた電子業界の設備投資が始まり、明るい兆しがありました。そのような中、2020年2月頃より新型コロナウイルスの感染が広がり、中国では生産や販売で影響を受け、タイやインドネシアなどでも自動車産業を中心に、設備投資が抑制されました。

2020年度に入り、中国ではいち早く経済活動が再開し、製造業全般で生産活動の正常化が進み、台湾・韓国では、半導体設備投資が底堅く推移しました。国内では、自動車関連の設備投資は引き続き慎重な様子が続いておりますが、5Gの普及にテレワーク関連の需要が重なり、半導体設備投資は拡大いたしました。さらには、全社で取り組んだ生産性改善・経費削減活動の効果が寄与し、収益性も高まってまいりました。

過去の中期経営計画の振り返り

| | 第1次中期経営計画 2010～2012年度 | 第2次中期経営計画 2013～2015年度 | 第3次中期経営計画 2016～2018年度 |
|--------------|--|---|---|
| タイトル | NEW CKD 2012 | GLOBAL CKD 2015 | Challenge CKD 2018 |
| 最終年度 目標数字 | <ul style="list-style-type: none"> 連結売上高：850億円 営業利益：90億円 営業利益率：10.6% | <ul style="list-style-type: none"> 連結売上高：850億円 | <ul style="list-style-type: none"> 連結売上高：1,000億円 営業利益：100億円 営業利益率10.0% |
| 最終年度 業績結果 | <ul style="list-style-type: none"> 連結売上高：650億円 営業利益：32億円 営業利益率：5.0% | <ul style="list-style-type: none"> 連結売上高：851億円 営業利益：80億円 営業利益率：9.4% | <ul style="list-style-type: none"> 連結売上高：1,157億円 営業利益：54億円 営業利益率4.7% |
| 基本方針 | <ul style="list-style-type: none"> 海外・国内拠点整備 収益構造の強化 成長市場に向け商品強化 「流体制御と自動化」を基盤とした新事業育成 | <ul style="list-style-type: none"> 商品・販売・生産のGLOBAL化 | <ul style="list-style-type: none"> 国内No.1商品をグローバルNo.1に進化 新しい事業と新しい市場に挑戦 事業基盤の拡大 |
| 振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 成長市場における事業拡大と中国を中心としたアジア新興国の経済成長に注目し、海外市場における事業拡大を掲げ活動した。 海外事業については、海外販売拠点を12カ国56拠点へ拡充し、2012年度の海外売上高は2009年度に比べて1.7倍の135億円に拡大することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 国内外で拠点の増強に取り組み、海外生産は5カ国、販売は15カ国に74拠点を保有。 2015年度の海外売上高は2012年度に比べて1.7倍の232億円に拡大することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 2016年度から2018年度までの3年間の累計売上高は3,254億円となり、第2次中期経営計画の実績と比べ34%増加。 機器の3年間の累計売上高は、前中期経営計画と比べ41%アップ。半導体製造装置向け機器の売上が市場の後押しもあり大幅に増加。 自動機械の3年間の累計売上高は、前中期経営計画と比べ6%アップ。海外売上高が28%増え、国内の医薬品設備投資の減少分を海外で補った。 |
| 成果 | <p>自動機械</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬品用包装機の売上拡大 三次元はんだ印刷検査機の中国生産開始 薬品用包装機のサービス会社設立 <p>機器</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療向け商品の売上拡大 ビジネスユニット体制への変革 中国市場向け適正品質商品の発売 <p>事業基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外トレーニー制度の導入 生涯現役制度の導入 海外拠点のシステム拡充 中国新工場建設着手 基幹システム構築(自動機械) | <p>自動機械</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国市場向け薬品用包装機の開発と受注 新型食品用包装機の国内およびアジア市場への展開 サービス・サポート体制の強化 三次元はんだ印刷検査機の車載用基板検査への需要増対応と、高精度新型機の発売 <p>機器</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療分析装置用バルブの開発 食品業界向けFPシリーズ52機種発売 半導体業界向けに最先端の微細化対応商品の開発 空気圧バルブのモデルチェンジ 中国工場で商品化した空気圧バルブのバリエーション強化 四日市工場の機器マザー工場化を推進 <p>事業基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国新工場の竣工 インドネシア生産工場の稼働開始 小牧工場に包装機組立用の新棟を竣工 | <p>自動機械</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬品用包装機の中国生産と販売の体制強化 省人化要求に対応した薬品包装シート検査機の発売 モニタリングシステムの開発 予防保全サービス開始 Vパックなど新しい包装形態の確立 三次元はんだ印刷検査機の拡販 <p>機器</p> <ul style="list-style-type: none"> CKD日機電装との事業統合 アライアンス先との連携による電動商品強化 空気圧バルブのネットワーク対応強化 IO-Link搭載商品の発売 助力装置や食品業界向け機器、窒素ガス精製ユニットなど、社会課題の解決につながる商品の発売 先端産業が集まるシリコンバレーに技術開発拠点を設立 <p>事業基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> インド、欧州に現地法人を設立 東北新工場、中国新生産棟を竣工 新基幹システムの導入(機器) 本社・小牧工場内に託児所を開所 |
| 課題 | <p>自動機械</p> <ul style="list-style-type: none"> 収益性の向上と海外事業を展開するための販売・生産・サービス基盤の構築 <p>機器</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外売り上げのさらなる拡大、新興国市場価格への追従、成長市場への取り組み強化 | <ul style="list-style-type: none"> グローバル化に適したシステムの構築 機器需要の大きい米国や欧州に向けた取り組み 新たな成長市場に向けた商品開発と新事業育成の強化 | <ul style="list-style-type: none"> 電動事業と新規事業の拡大 海外売上高の拡大 グローバルに対応した事業基盤の強化 人材育成 |

長期経営ビジョン

10年VISIONタイトル

GO CKD

目指す姿

世界のFAトータルサプライヤー

より豊かな
社会づくりに
貢献

株主の皆様の
期待に応える

社員、そして
家族を
大切にする

中期経営計画

Build-up CKD 2021

基本方針

国内No.1商品をグローバルに進化
新しい事業と市場に挑戦
事業基盤の強化

基本的な要件

人材育成

過去の中期経営計画の 振り返り

CKDは、2006年度に当時の過去最高となる売上高1,042億円を達成しましたが、リーマンショックの影響を大きく受け、2009年度には売上高が500億円となり、2006年度対比で半減する厳しい経営環境でした。当時は、毎期の経営計画はありましたが、中長期の経営計画は策定しておりませんでした。また、革新的な取り組みや企業体質の改善をもっとダイナミックに行い、かつ中長期的に取り組まなければならない課題もありました。そのような中、各種施策の効果と経済環境の好転により成長が期待できる雰囲気社内外にあり、業績の下げ止まりが確認できたこの時が勝負時と判断し、2010年4月に第1次中期経営計画“NEW CKD 2012”を掲げました。第1次中期経営計画は、尖閣諸島問題による日中関係の悪化から経済活動が低迷し計画未達でしたが、第2次中期経営計画、第3次中期経営計画はグローバル化と事業基盤の強化を推進し、順調に売上高を伸ばしてまいりました。

第4次中期経営計画 Build-up CKD 2021の 進捗と今後の展開

2019年4月から始まった第4次中期経営計画は、10年VISION達成に向け、将来につながる基盤を築きながら力強く成長する3年間にするため「Build-up CKD 2021」としました。2021年度の売上高1,430億円、営業利益143億円、営業利益率10%を経営目標とし、三つの基本方針を掲げ取り組んでおります。この「Build-up CKD 2021」の進捗と今後の展開を、基本方針ごとに説明いたします。

基本方針1の「国内No.1商品をグローバルに進化」は、国内で高いシェアを持ち、特長のある商品を海外市場にも展開し、グローバルNo.1を目指しています。自動機械事業では中国工場を最大限活かし、現地では日本品質を実現した中国市場向け医薬品自動包装機「FBP-300W」を発売しました。また、三次元はんだ印刷検査機「VP9000」は、デザインや操作性が欧米で高く評価され、2019年6月の発売以降、多くの受注をいただいております。機器事業では、自動化された最先端の東北工場を本格稼働させ、生産能力を増強

いたしました。北米では、USAテクニカルセンターを有効に活用し、新たなお客様との関係強化を図りました。中国では、新生産棟でCKD日機電装のτDISCの生産が始まり、中国市場が求めている高性能な商品をタイムリーに提供できる体制が整いました。今後は、グローバル化を加速し海外売上高をさらに拡大させるために、現地における開発機能やマネジメント力を向上させ、現地対応力を強化してまいります。また、最適なサプライチェーンマネジメントを構築し、グローバルな競争力を高めることが重要となってきています。これらを経営課題として認識し、取り組んでまいります。

基本方針2の「新しい事業と市場に挑戦」は、新事業の立ち上げと新市場の開拓に向け、さまざまな挑戦をしております。電動事業では、電動アクチュエータ5機種とコントローラ1機種の同時発売や、CKD日機電装とCKDが共同で融合商品を開発し、さらに両者の営業部門の協力体制を強化するなど、電動事業の成長戦略を加速させました。空気圧機器では、高耐久機器「HPシリーズ」を発売し、お客様の生産性アップやメンテナンス回数減少による廃棄物の削減に貢献しています。CKDは、電動機器と空気圧機器の両方を開発・販売する強みがあり、お客様のニーズに対し、ベストな提案を展開してまいります。新規事業では、専門知識が必要とされる検査工程の自動化において、20年以上培ってきた画像処理技術を応用し、簡単に使うことができる画像処理ビジュアルプログラミングツール「Facilea」を発売しました。また、好評を博しているパワフルアームに新シリーズを追加し、世界中の人たちに働きやすい環境を提案しています。そして、自動機械事業のCKDフィールドエンジニアリングを軸にサービス事業を拡大し、将来の柱を築いてまいります。

基本方針3の「事業基盤の強化」について、生産と販売の基盤強化を進めています。北米では、2021年秋頃に米国テキサス州において、生産工場を稼働させる予定です。本工場は、流体制御機器分野の需要拡大を見据えた生産体制の強化を狙っています。インドでは新たな生産工場の建設、欧州では現地パートナーとのアライアンスに取り組んでおり、新型コロナウイルスの影響はあるものの、準備を進めております。また、

新基幹システムを戦略的に使い、生産性や収益性向上に結び付く活動ができるようになりました。「サステナブルな事業基盤」を確立するために、デジタル技術の活用が極めて重要であると考えております。お客様へ提案をしていく攻めのデジタル化と、生産現場の生産性を高める守りのデジタル化を実現してまいります。そして、持続可能性の高い企業となるために、環境への取り組みや事業活動を通じた企業の社会的責任への対応を強化してまいります。

経営課題への対応とESG (環境・社会・ガバナンス)に 対する取り組み

CKDは、SDGs (持続可能な開発目標) のゴールにつながる活動に取り組み、事業を通じて社会の課題解決と発展を目指しています。そのために、サステナブルな事業基盤の確立を推進し、SDGsを見据えた社会貢献型の事業や商品を共創することで、ステークホルダーの皆様へ新たな企業価値を提供してまいります。環境については、インフラや生産工程のエネルギー使用量の削減に努めるとともに、環境負荷低減商品の開発と拡販に取り組んでまいります。社会については、従業員のエンゲージメントを最重要課題とし、多様な人材が能力を最大限に発揮できるよう人材育成を強化してまいります。ガバナンスにつきましては、好感を持たれ信頼され続ける企業になるために、健全で効率的な経営の実現と、経営内容の透明性を高めてまいります。

CKDは全社員が一丸となり、社会の課題解決と企業価値の向上を実現してまいります。ステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。